

貴センターにおかれましては設立 50 周年を迎えられ誠にありがとうございます。

言うまでもなく、第一次オイルショック以降中東産油国との関係強化が叫ばれる中、原油の中東依存度を下げる試みもなされて参りました。しかしながら原油の中東依存度は一時的に下がったもののその後はむしろ高まっていること、また、水素等のクリーン・エネルギーの供給地としても有望なことなどに鑑みれば、中東・北アフリカ諸国との産業・経済・通商分野での協力を目的とし、近年インフラ・環境等の分野も加えた包括的な協力を推進されている貴センターの存在はますます重要性を増していると拝察致します。更に、サウジアラビア、UAE、イラン等に現地事務所を構え、現地カウンターパートとの意思疎通、日本企業のサポート体制が更に充実されてきたものと存じております。貴センターは、現地の投資環境等の情報提供にとどまらず、現地調査ミッションの派遣、企業化可能性調査、二国間経済関係強化、研修・技術指導事業等、我が国の産業界に寄り添った独自の価値を発揮されていると存じます。

さて、当社は、2003 年サウジアラビア西岸に位置するラービグでの石油精製・石油化学統合コンプレックス新設案件に応札致しました。幾たびかの交渉を経てサウジ・アラムコ社（パートナー）から指名を受け、続いて基本合意書を締結し、サウジアラビアへの進出を本格的に検討することとなりました。本プロジェクトは、既存の常圧蒸留装置（原油処理量 40 万 b/d）に加え、流動接触分解装置および関連設備を新設してガソリン、プロピレンおよび誘導品等を生産、新設のエタンクラッカーにより 130 万 t / 年のエチレンを生産し、下流の新設石化設備により誘導品を生産する大型の計画でありました。

当社が実施を決断する過程で貴センターからは、本プロジェクトを中東産油国投資促進事業（企業化可能性調査事業）に採択頂き、導入技術選定・エンジニアリング、合併条件、製品市場・サプライチェーン等の重要事項の検討に必要な資金のご提供を頂きました。貴センターからの後押しを頂いた結果もあって、2005 年合併契約を締結するに至り、直後にサウジ・アラムコ社との合併会社（ペトロ・ラービグ社）を設立、4 年にわたる建設期間を経て 2009 年から生産を開始致しました。生産開始後、コア設備で初期操業トラブルが発生、外部電源の停電等による操業中断など困難な時期を経ながら、運転技術の向上・設備改造を重ねようやく安定操業に至りました。

更に、本プロジェクトに加えて、2012 年に当社とサウジ・アラムコ社は、エタンクラッカーの増設、芳香族プラントの新設によるパラキシレン、ベンゼン、自動車用部材等を製造する拡張プロジェクトの実施を決定致し、数年間の建設期間を経て、2017 年より順次生産開始し、2019 年にすべての設備が稼働致しております。

ペトロ・ラービグ社は、現在、資本金 45 億米ドルの上場企業（一般株主出資分 25%）となり、従業員数約 3 千人、売上高約 150 億米ドルの企業となっております。当社は技術移転を促進し、設備課題への対処、運転・メンテナンス・エンジニアリング技術習得支援等のために、ピーク時でおよそ 400 名の人員を派遣して支えて参りました。その後無事に技術移転が終了した結果、サウジ人社員の習熟度、技量が上がり、安定操業を実現するに至りました。

常に予見が困難な中東情勢ではありますが、貴センターにおかれましては設立後半世紀を契機に、引き続き現地に密着した情報発信を行うと共に、日本企業のニーズなどを踏まえつつ、今後共益々ご活躍、ご発展されることをお祈り申し上げます。

以上

